

Ⅲ 重点施策への関心・認識

<性別に関するアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について>

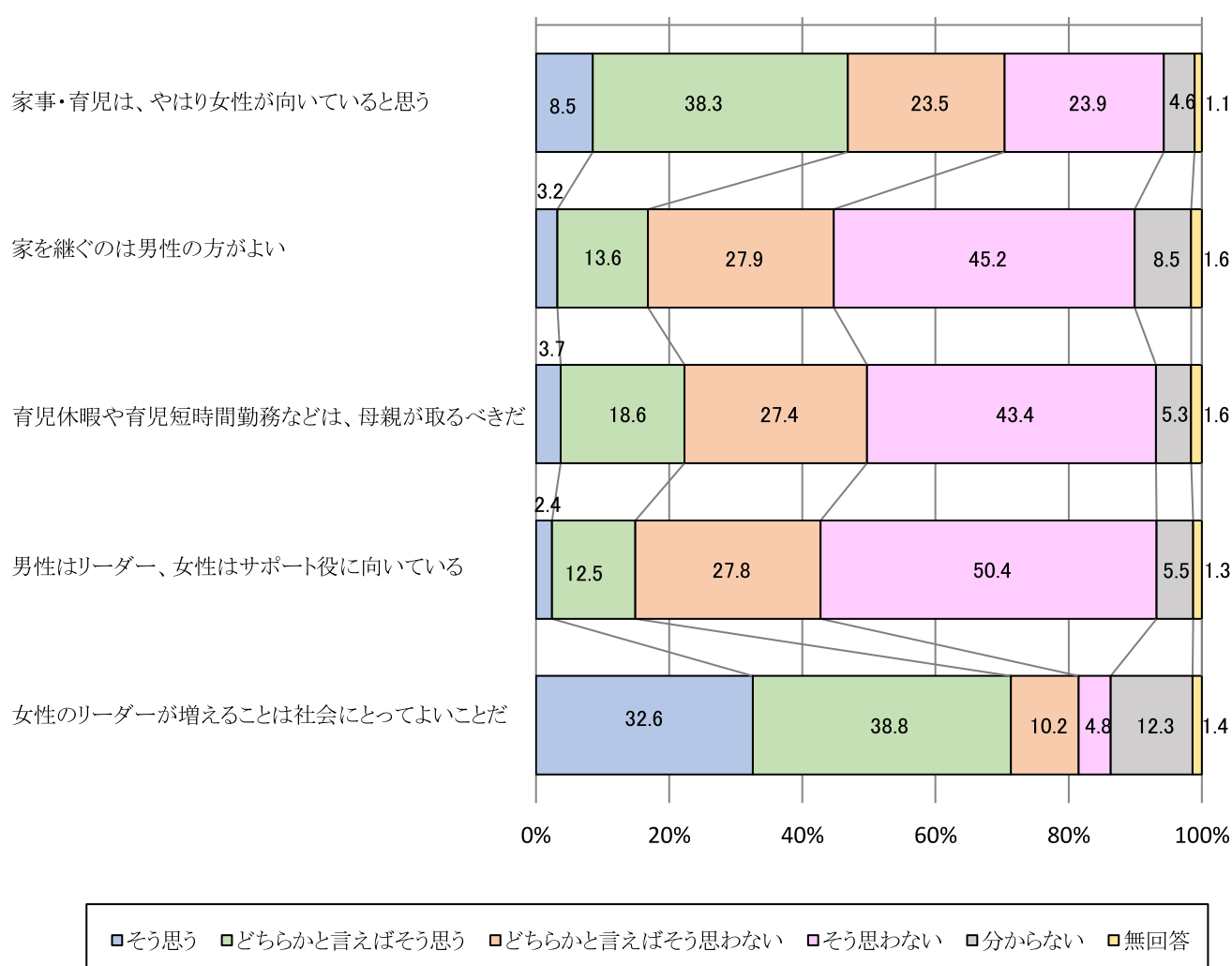
問 10 次の項目(設問)についてどう思いますか。(○は1つだけ)

～「女性のリーダーが増えることは社会にとってよいことだ」への共感が約7割～

性別に関するアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について、「そう思う」は「女性のリーダーが増えることは社会にとってよいことだ」が 32.6%と最も高くなっている。また、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計は、「女性のリーダーが増えることは社会にとってよいことだ」が 71.4%、「家事・育児は、やはり女性が向いていると思う」が 46.8%となっている。

一方、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」の合計は、「男性はリーダー、女性はサポート役に向いている」が 78.2%と最も高く、「家を継ぐのは男性の方がよい」が 73.1%、「育児休暇や育児短時間勤務などは、母親が取るべきだ」が 70.8%となっている。

図30 性別に関するアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)について (n=1,596)



問 11 ご自身の中に、「男だから」「女だから」といった性別による役割分担意識があると思いますか。(○は1つだけ)

～性別による役割分担意識について、「ある」が約半数～

性別による役割分担意識について、「ある」が 51.0%となっている。また、「ない」は 27.1%となっている。

年代別でみると、「ある」は 40 歳代、60 歳代以上が高くなっている。

性・年代別でみると、「ある」は女性の 40 歳代、60 歳代以上で高く、「ない」は男性の 20 歳代で高くなっている。

図31 性別役割分担意識 (n=1,596)

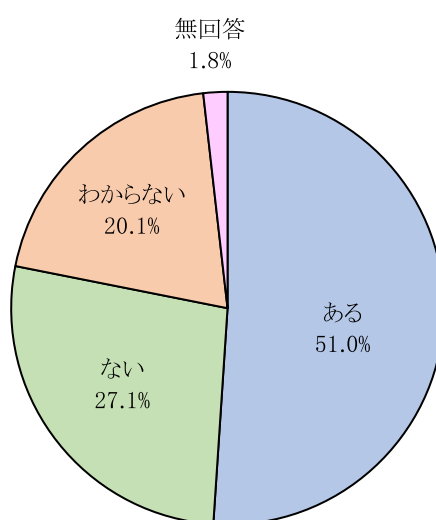
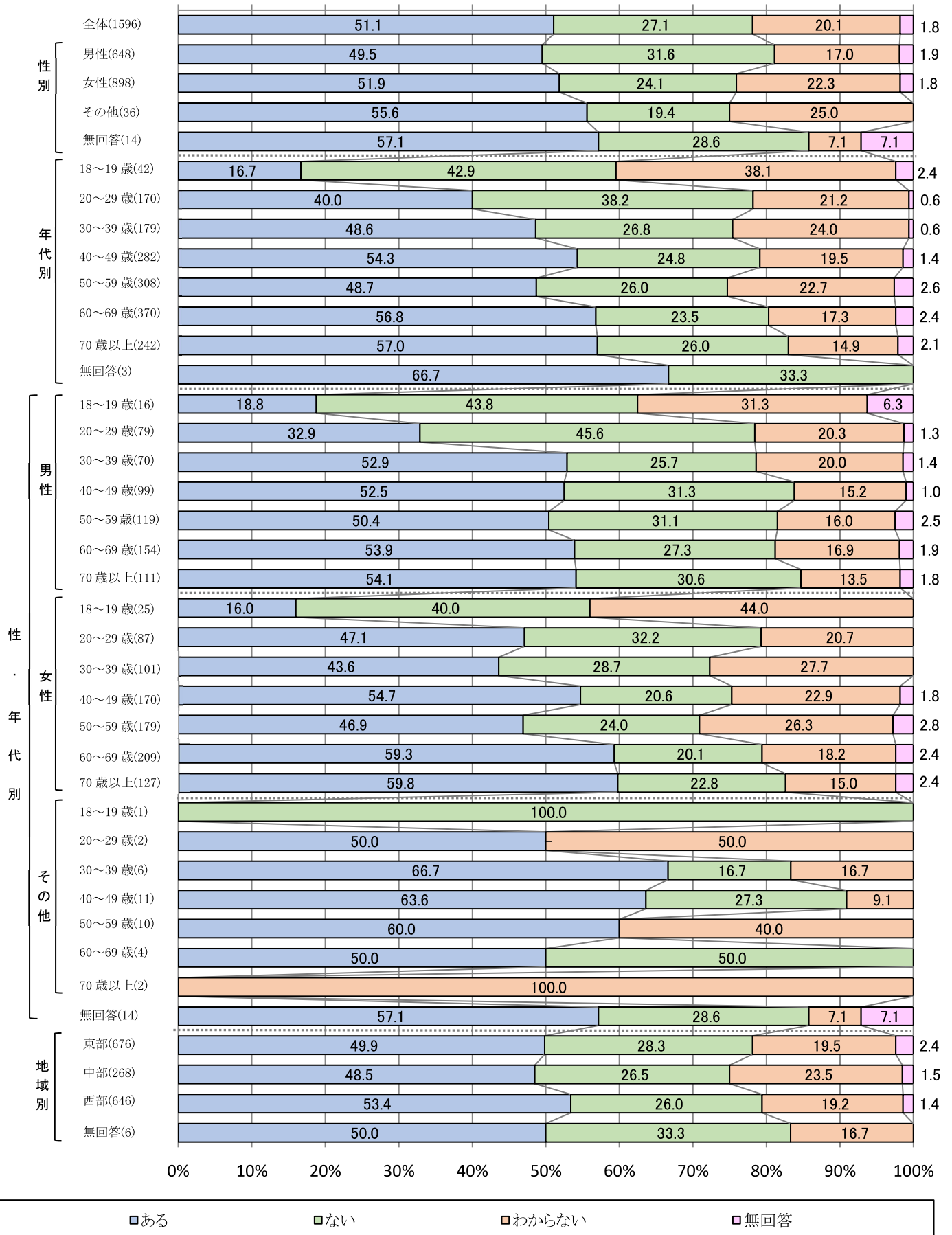


図32 性別役割分担意識:自身の中に「男だから」「女だから」といった性別による役割分担意識があるか(性別・年代別・地域別)



問 12 (「ある」と回答された方へ)ご自身の中にある性別役割分担意識は、主に誰からまたは何から影響を受けたものだと思いますか。(〇はいくつでも)

～「家族(親、きょうだい、パートナー)や友人・知人」が約8割～

性別役割分担意識は、主に誰からまたは何から影響を受けたものかについて、「家族(親、きょうだい、パートナー)や友人・知人」が 76.7%と最も高く、次いで「職場」が 33.6%、「学校」が 17.7%となっている。

年代別でみると、「家族(親、きょうだい、パートナー)や友人・知人」は全ての年代で高く、「職場」は 20 歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「家族(親、きょうだい、パートナー)や友人・知人」は男性の 40 歳代、60 歳代以上、女性は全ての年代で高く、「職場」は男性の 20 歳代、40 歳代、女性の 20 歳代、70 歳代で高く、「学校」は男性の 20 歳代で高くなっている。

図33 性別役割分担意識は誰からまたは何からの影響か(n=815)

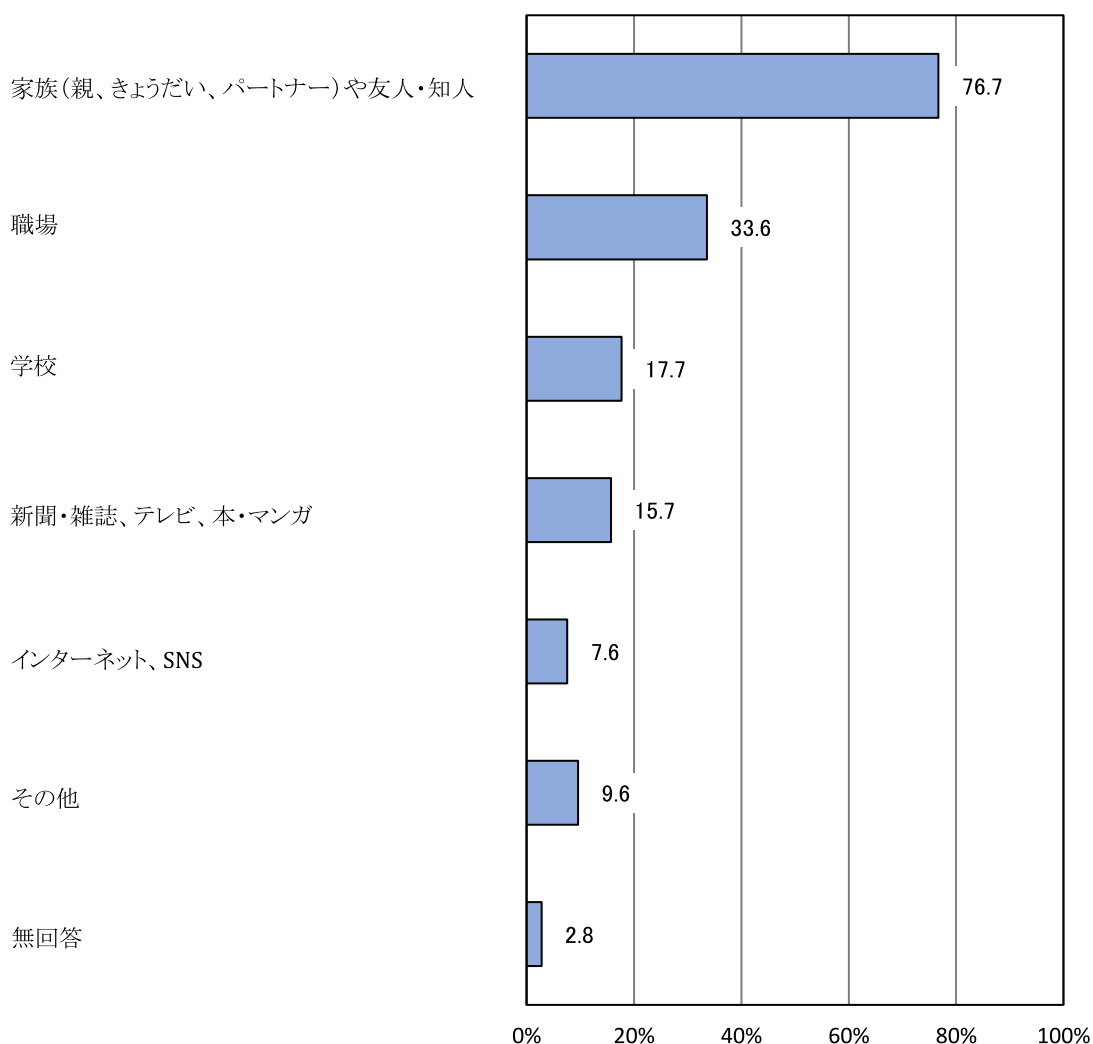
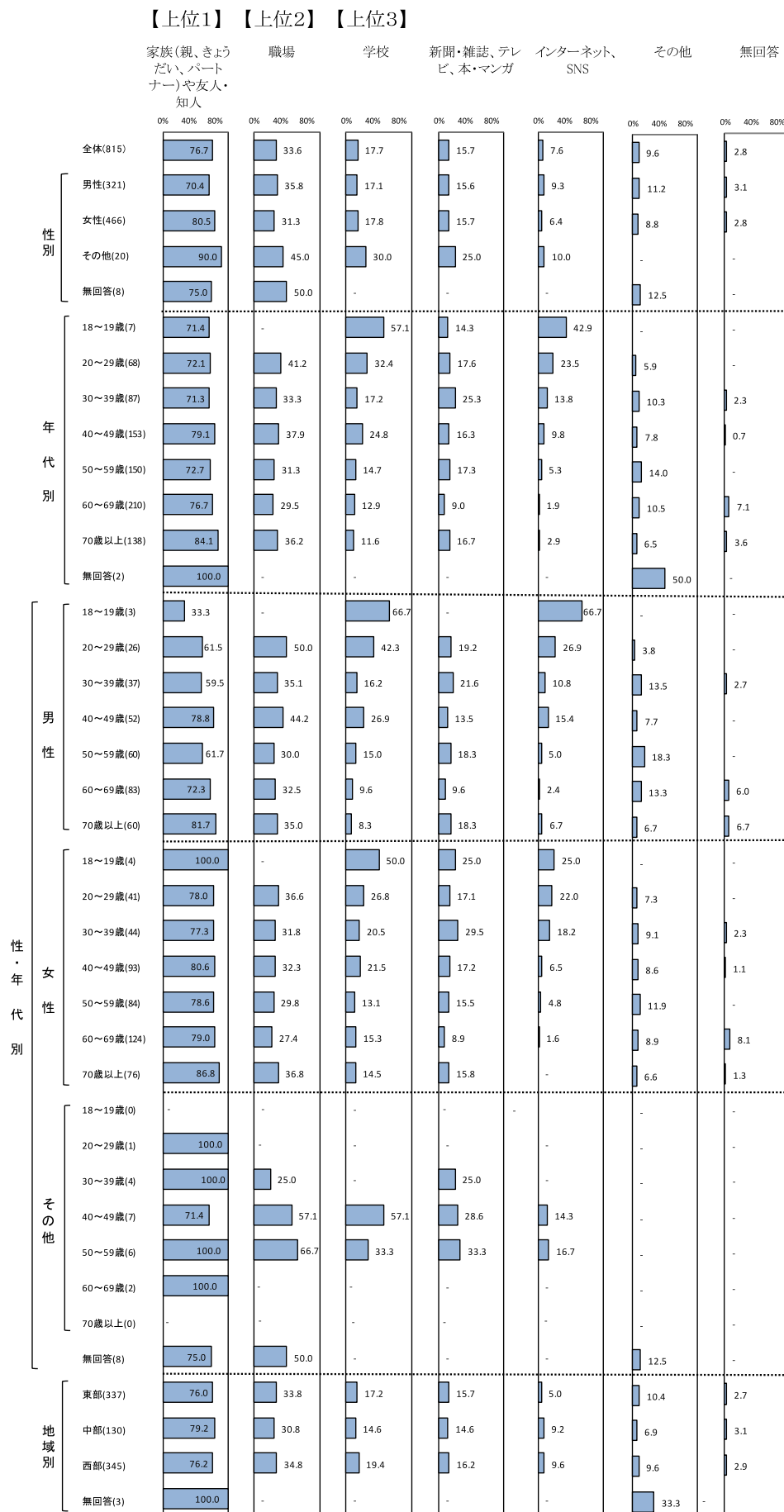


図 34 性別役割分担意識は、主に誰からまたは何から影響を受けたか（性別・年代別・地域別）



問 13 「男だから」「女だから」といった性別による生きづらさ(「暮らしづらさ」、「働きづらさ」、「仕事と家庭の両立しづらさ」など)を感じたことがありますか。(○は1つだけ)

～性別による生きづらさを感じたことが「ある」が約3割～

性別による生きづらさを感じたことがあるかについて、「ある」が 27.2%、「ない」が 45.0%となっている。

年代別でみると、「ある」が 40 歳代で高く、「ない」が 20 歳代で高くなっている。

性・年代別でみると、「ある」は女性の 40～60 歳代で高く、「ない」は男性の 40 歳代を除く年代、女性の 20 歳代で高くなっている。

図35 性別による生きづらさ (n=1,596)

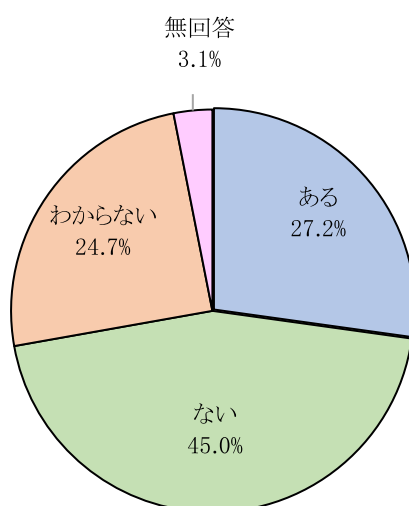
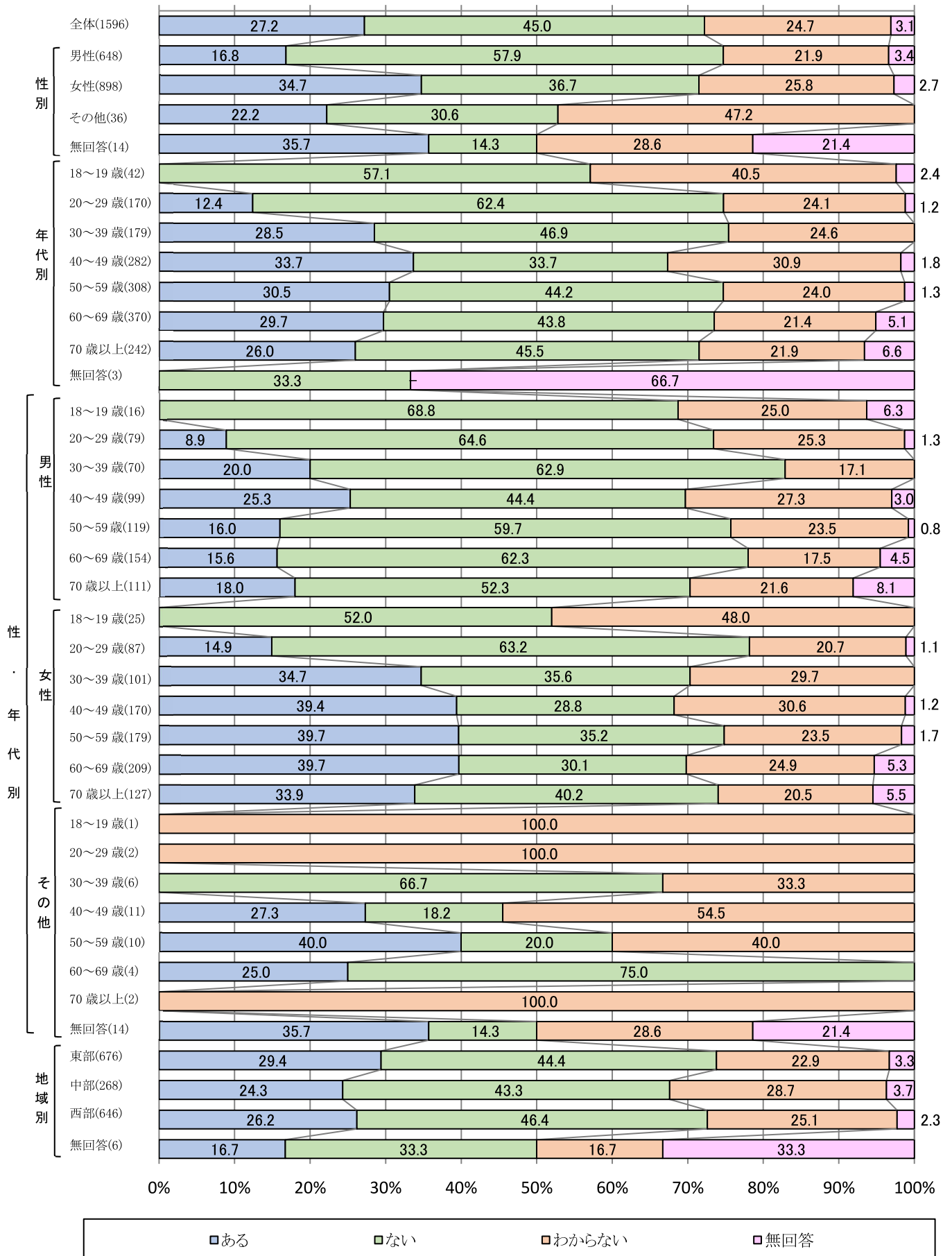


図36 「男だから」「女だから」といった性別による生きづらさを感じたことがあるか
(性別・年代別・地域別)



問 14 (「ある」と回答された方へ)それはどんなできごとでしたか。

自由記載ページ(P49)にて抜粋して紹介しています。

問 15 どうすれば性別役割分担意識による生きづらさ(「暮らしづらさ」、「働きづらさ」、「仕事と家庭の両立しづらさ」など)が解消されると思いますか。(〇はいくつでも)

～「家庭と仕事を両立しやすい環境」が約6割～

どうすれば性別役割分担意識による生きづらさが解消されるかについて、「家庭と仕事を両立しやすい環境」が 61.9%と最も高く、次いで「性別に関係なく、自分の能力や個性を最大限に発揮できる社会を目指す意識づくり」が 57.5%、「男性がすべき、女性がすべき」といった性別役割分担意識に基づく慣習やしきたりの見直し」が 53.2%となっている。

年代別でみると、「家庭と仕事を両立しやすい環境」は 30 歳代以下で高く、「性別に関係なく、自分の能力や個性を最大限に発揮できる社会を目指す意識づくり」は 60 歳代以上で高くなっている。

性・年代別でみると、「家庭と仕事を両立しやすい環境」は、男性の 30 歳代、女性の 20～30 歳代で高く、「性別に関係なく、自分の能力や個性を最大限に発揮できる社会を目指す意識づくり」は男性の 60 歳代、女性の 20 歳代、70 歳代以上で高く、「男性がすべき、女性がすべき」といった性別役割分担意識に基づく慣習やしきたりの見直し」「家事や育児を家庭内で分担し、役割分担を固定化しないこと」は女性の 60 歳代以上で高くなっている。

図37 性別役割分担意識による生きづらさの解消 (n=1,596)

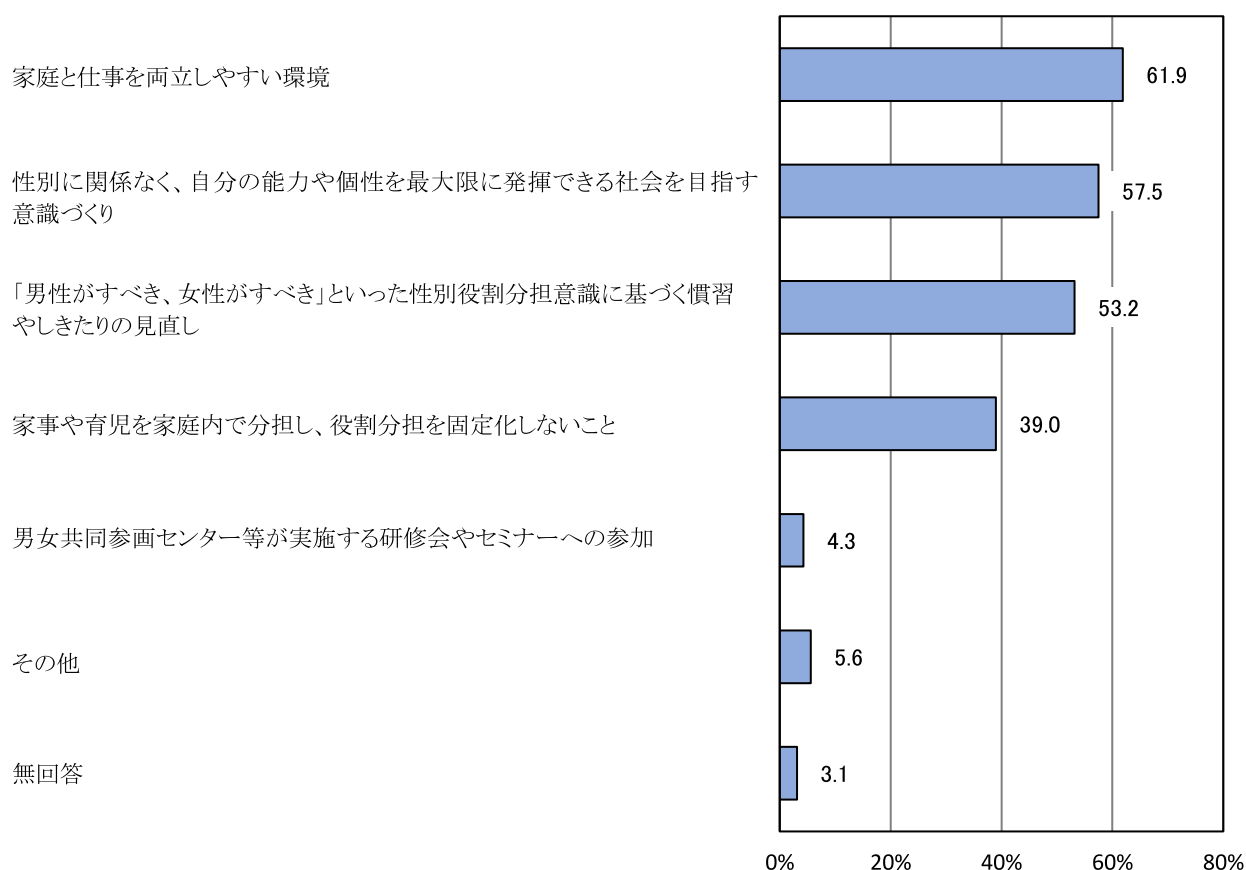


図 38 性別役割分担意識による生きづらさの解消（性別・年代別・地域別）

